



平成 25 年 1 月 1 日発行

第 8 号

京田辺市観光ボランティア

ガイド協会広報部編集

☎ 0774-68-2810

新年のごあいさつ

平成 19 年に 8 人で発足しました当協会も、やっと組織として本格的な活動ができる 25 人の会員を数えるまでに成長することができました。混迷し停滞感が漂う昨今の世情にとって、今こそボランティアの原点であるホスピタリティの精神で、人と人との温かいふれあいの場を創ることが求められているのではないのでしょうか？

わたくしたち観光ボランティアガイドは新年にあたりまして、そんな決意も新たに市民の皆様や観光客の皆様との出会いを大切に、わが町『京田辺市』の活性化・好感度に少しでも寄与するべく全力を挙げて活動したいと思いますので、どうかご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。

(代表小川)



雪の一休寺参道

『古事記編纂 1300 年記念、 京田辺の古事記を歩く』

平成 24 年は古事記編纂 1300 年にあたります。京田辺市観光ボランティア協会ではこれを記念して、古事記・日本書紀に登場する神々・天皇・豪族を挙げ、これらの神々・天皇・豪族が登場する京田辺市内の神社仏閣、名所旧蹟を紹介する観光ツアーを企画しました。

第一回目は「国造りの神々の伝説、応神天皇の酒、仁徳天皇の蚕、継体天皇の宮伝説を訪ねて」と題し、昨年 11 月 10 日に実施しました。

第二回目は「大住隼人舞の海幸彦・山幸彦神話の起源を求めて」と題し、平成



隼人舞

25 年 2 月 11 日に実施します。隼人舞は毎年 10 月 14 日に月読神社で奉納され、この神社に関連する寺院旧蹟を探索します。

第三回目は「雲上の牡丹と古事記の神々を訪ねる」と題し、4 月 29 日に実施します。

京田辺市の南西には天王、打田など低い山々に囲まれた山村が点在し枚方市と接しております。中でも



無二荘 咲き誇る牡丹の花

高船は邇芸速日命(にぎはやひのみこと)が天の磐船に乗って高天原から、この河内国河上に降臨したと言われている場所かもしれません。三回目はこれらの遺跡を巡ります。

又当日は牡丹の名所「無二荘」を訪れ、見事な牡丹を見学します。是非ご参加ください。

(藤野)

JRふれあいハイク夏号 -9月22日- 『初秋の甘南備山から平安京を望む』

厳しい暑さが残る初秋のJR大住駅に集合し、90名と多数の方々に参加されました。幼児～80歳代と多岐にわたり、遠くは三重、滋賀から参加していただきました。それぞれ約15名の6班に分かれ出発しました。途中、虚空蔵谷川の滝の涼風に一息ついて、いざ甘南備山へ。片側が崖となっている尾根歩きや、変化に富んだアップダウンのコースを楽しみ山頂を目指し、途中平安京の南方(朱雀の方角)の目印となったと伝えられる白石や展望台の眺望に、いにしへの平安京に思いをはせました。帰路は一休寺を経て、JR京田辺駅まで事故なく全員が完歩しました。(望月)



甘南備山頂より 風弁当に舌鼓

JRふれあいハイク秋号 『千鉾山から甘南備山へ 京田辺の雲上を歩く』

10月27日、歩程17kmの健脚者対応ハイキングが開催されました。近畿各地から約90名の参加者があり、5班に分けて対応、なかなかの盛況でした。

朝9時15分、JR三山木駅前に集合、ルートの概要説明を行なったあと奈良交通の臨時バスに分乗、終点の高船バス停で下車、準備体操の後、スタートしました。極楽寺、石船神社で説明をしたあと、さすがに皆さん健脚者ぞろい、順調に京田辺最高峰の千鉾山(311m)へ到着しました。途中で休

憩をとり、生駒山を遠望、その後、三国境



を經由して朱智神社へ。そこで昼食をとり(約1時間)、穂谷方面に出発する。少々疲れ気味であったが穂谷から満開のコスモス畑を満喫し尊延寺へ。国道307号を渡り、甘南備山の枚方側にある扇池から京田辺市の甘南備山に進む。ここからは頂上の甘南備神社を經由するメンバーと、雨乞の井戸を經由するメンバーに別れる。その後、甘南備山登山口を経て、まだ紅葉には早い一休寺、甘南備寺、棚倉孫神社を經由し、JR京田辺駅に午後4時過ぎに到着しました。

次回の京田辺へのご来訪をお願いして解散しました。晴天に恵まれ、事故も無く、参加者の反応も好評でした。(村上)

『古事記編纂1300年記念、 京田辺の古事記を歩く』

第1回ウォーク -11月10日-

《国造りの神々の伝説、応神天皇の酒、仁徳天皇の蚕、継体天皇の宮伝説を訪ねて》
今年度は「古事記」編纂1300年記念の年にあたり、三回の関連ウォークを企画するためのプロジェクト班を立ち上げました。

班では、記紀の中で京田辺に関連のある神々・天皇を選び、それぞれについて分



酒の佐牙神社

担し、調べた内容を発表し合う形で学習を

進めてきました。

昨年 11 月 10 日、その一回目の企画として『国造りの神々の伝説、応神天皇の酒、仁徳天皇の蚕、継体天皇の宮伝説を訪ねて』と題して 8km のコースを案内しました。

参加者は 25 人を数え、8 人のメンバー全員でガイド当たりました。酒の佐牙神社から始まり、次の山崎神社では主祭神額田



山崎神社

大中日子命について説明し、蚕飼育旧蹟では、最も著名な磐之媛伝説を紹介しました。

次の地祇神社ではクイズ参加型で楽しく、もうひとつのメインスポット酒屋神社では神々と天皇について情緒豊かにガイドしました。最後は筒城の宮跡での解説で終了し、メンバーそれぞれの個性あふれるガイドを熱心に聴いて下さり、楽しんでいただけた様子でした。次回のガイドにも大きな期待を寄せていただきました。(大内)

管外研修に寄せて -11月18日-

晩秋の一日、飛鳥と難波を結んだ竹内街道沿いの史跡を訪ねました。



京田辺観光ボランティア協会会員

先は南河内・磯長の里の叡福寺。創立は明らかではないが聖徳太子の御墓のある寺として知られる。飛鳥時代に活躍した太子が、母・間人皇后と、誰よりも愛した女人・ほきまみのいづめ 菩岐々美郎女と共に静かに眠る霊墓は鬱蒼

と樹々に覆われていました。

次いで近つ飛鳥博物館では、関西各地の古墳や遺跡からの出土品を見学しました。圧巻は仁徳陵古墳の模型と修羅。その他に武具・装飾品・農耕具・埴輪など古代人の知恵に感嘆させられるばかりでした。

午後からは大和の葛城の地へ。「いちごんさん」でお馴染みの一言主神社では、仲間達が心に願う一つだけを神妙にお祈りしました。

シンボルの大銀杏は倒壊防止の為に根幹部だけを残し切られていましたが、幾百年の風雪に耐えて来た老木の毅然とした姿に遠く葛城王朝を偲びつつ、京田辺に関わりのある仁徳天皇の皇后・磐之媛との強い絆を感じました。(岡井)

玉露の産地京田辺でお茶の香りを楽しむ

12月1日、今にも降り出しそうな空模様、JR 三山木駅には集合 1 時間前に早くもお客さんが到着。遠くは和歌山県橋本市からの参加者を含め計 53 名。

参加者を 1 班 (30 名) と 2 班 (23 名) に分けて出発した。最初の壽寶寺では、ほとんどの参加者が、実際に千



壽寶寺十一面千手観音

本の御手を持っている十一面千手千眼観音菩薩を拝観して感動されていました。

飯岡ではお茶の説明を中心に、穴山梅雪の墓と古墳群の説明をした。その後、草内咋岡神社・法泉寺を経て予定通り中部住民センターに到着しました。

昼食後、日本茶インストラクターの方の親切な指導により、美味しい玉露を楽しみました。お茶を出した後の茶葉にポン酢を

かけて食す。「美味しい」と大変好評でした。帰路近くのお茶屋さんに立ち寄り、お買い物と、思わぬプレゼントをもらいニコニコ顔。「楽しかった、又来ます」の声、疲れも寒さも吹っ飛んでいった楽しい一日でした。

(新井)



玉露のお店に案内

堺観光ボランティア協会交流会開催報告

11月28日、京田辺観光ボランティア協会と堺観光ボランティア協会(堺協)の交流会が行われ、堺協から会員33名、当会から16名が出席しました。



活発な話し合いが行われた交流会風景

交流会ではそれぞれ協会の組織の構成やボランティア活動の方法、問題点、活動範囲等を話し合いました。当会に比べ規模の大きい堺協の話や意見は、我々の今後の活動に大変参考になるものでした。

交流会終了後、京田辺市の主な観光スポット(午前中は酬恩庵、午後から酒屋神社、継体天皇と筒城宮跡、観音寺、壽寶寺、飯岡の穴山梅雪の墓)を意欲的に探索していただき、楽しい一日を過ごしていただきました。

(藤野)



← 休寺
庭園

今後のJRふれあいハイクのご案内

平成25年2月11日(月・祝)

『古事記編纂1300年記念・京田辺の古事記を歩く』第二回目「大住隼人舞に海幸彦・山幸彦神話の起源を求めて」

JR松井山手駅 9:45 - 天神社 - 大嘗会田趾 - 月読神社 - 北部住民センター(隼人舞ビデオ上映) - 大住駅 15:00頃
歩程 7Km 参加費 200円

平成25年4月29日(月・祝)

第3回目「雲上の牡丹と古事記の神々を訪ねて」

JR三山木駅 9:30 - 高船バス停 - 極楽寺 - 千鉾山 - 三国境 - 朱智神社 - 無二荘牡丹園 - 観音寺 - JR同志社前駅 15:30頃
歩程 10Km
参加費 300円(観音寺は希望者のみ・拝観料 400円要)

- *京田辺旬彩弁当(600円)をご希望の方は予約時にお申し込みください。
- *全コースを京田辺市観光ボランティアガイドが案内します。多数のご参加をお待ちしています。

京田辺市の観光は

観光ボランティアガイドをご利用ください。

- *1グループ15名以下とし、1グループにつきガイド1名が案内します。
- *諸経費として1,000円を頂きます。
- *お問い合わせは観光案内所まで。

Tel 0774-68-2810

Fax 0774-68-2817

Email: info@kyotanabe

